

第2回 三番瀬再生会議の開催結果（概要）

- 1 日 時 平成17年1月26日（水）午後6時～9時
- 2 場 所 浦安市民プラザ WAVE 101
- 3 出席者数 委員17名 オブザーバー7名
- 4 参加人数 103人
- 5 会 議

【1】開会

【2】副知事挨拶

【3】議事

会議は、会議の冒頭、前回の会議では再生会議の設置要綱が決まったことを確認した。会議の進行について、前回の会議で説明できなかった平成16年度事業について説明を受け、その後再生会議の役割についても意見を聞くこととなった。

県から平成16年度の市川塩浜の護岸の改修に係る調査から順に説明があった。

（1）平成16年度「三番瀬漁場再生調査事業」について

（主な意見）

- ・藻が育つ環境を調べるため、市民や委員と一緒に富津の藻場なども見に行くというのではないか。
- ・昨年度のアサリ調査、アオサの調査結果をもとに、今後どのようにしていくのか。
- ・円卓会議での調査を整理するとともに、新たな調査の結果を公開していただきたい。
- ・今後の調査についても、調査の必要性などについて十分検討すべきではないか。
- ・漁業者の知見を科学的に説明するための調査やデータの解析をすべきである。

（会長のまとめ）

- ・円卓会議での調査や議論など、その成果を活かしていくべきである。
- ・調査のデータを公開しながら委員や県民に調査について説明していただきたい。
- ・漁業者も参加している漁場再生検討委員会で、円卓会議での成果などを活かす仕組みを考えていただきたい。
- ・自然相手の調査なので、多角的な視点で調査をしていただきたい。

（県の今後の対応）

- ・調査について、わかりやすい資料があれば添付していきたい。
- ・アサリの調査については、富津研究所とも相談しながら検討していきたい。

（2）平成16年度市川海岸塩浜地先護岸改修に係る調査について

（主な意見）

- ・護岸だけの検討ではなく、後背湿地の再生やまちづくりと一体となった検討を行うことが、円卓会議の精神である。
- ・災害などの対応を考えると、護岸整備の結論を早期に出し、緊急課題としてすぐにやってもらいたい。
- ・長期の問題、短期の問題に分けて検討すべきである。

- ・地盤沈下や広範囲にわたる環境の概査なども必要ではないか。
- ・埋立時のデータや市民調査など多くのデータをもとに集中して議論することがいいのではないか。

(会長のまとめ)

- ・護岸の検討委員会を発足させ、検討する体制を作る必要がある。
- ・ラインやポイントだけでなく、効果的な調査を行う必要がある。
- ・海と陸との連続性が確保でき、防災性にも優れているベストに近い護岸ができるようにしなければならない。

(会場からの意見)

- ・人間のためだけでなく、自然のためにもという気持ちを持ち検討すべきではないか。
- ・市川での自然再生の提案について、県はどう進めていくのか。

(県の今後の対応)

- ・今具体的な見通しを説明できる状況ではないが、今後市とも調整していく。

(会長の再確認)

- ・県土整備部の検討委員会の件と、海側に護岸だけ作ってしまうのではなく総合的な調査をしようとしていることを確認したい。

(県)

- ・検討委員会は設置するように調整中であるので、ご理解をいただきたい。

(3) 平成16年度「自然環境のデータベース構築、継続的な観測・記録調査(モニタリング)などの科学的な情報の集積」について

(主な意見)

- ・データや情報の集積については、個別に行うのではなく総合的に行うこととし、再生会議の評価委員会で統括するようなこともあるのではないか。
- ・水産のデータなども一緒に集積することとしたほうがいい。
- ・過去の文献やお年よりからのヒヤリングなどによる資料収集などもある。

(会長のまとめ)

- ・早期に評価委員会の立ち上げを議題にして、いずれ評価委員会との連携を図っていくやり方もあるのではないか。

(4) 平成16年度「環境学習及び利用・管理に関する検討」について

(主な意見)

- ・検討委員会には、教育現場の人も入れるべきである。
- ・円卓会議の護岸陸域小委員会では、環境学習の中身の議論がなかったので、検討委員会で十分検討していただきたい。
- ・幅広い議論が必要であることから、検討委員会の人数はもっと多くしてもいいのではないか。
- ・検討委員会はコンパクトで動きやすいものにし、その下に少人数のワーキングを置くことなども考えられる。
- ・谷津干潟での環境学習の取り組みなども参考にしてほしい。
- ・漁業者の参加も必要で、どう呼びかけていくかが問題である。

- ・環境学習は場や道具の検討から始めることとし、施設の検討は最後のほうでいい。
- (会長のまとめ)
- ・この委員会には漁業者も入りやすいと思うので、呼びかけていきたい。
 - ・いろんなテーマについて検討ができる委員の構成の総合性と突っ込んだ議論ができるような委員会運営の機動性を持った委員会となるよう考えていただきたい。
 - ・委員の数は20人まで増やしてもいいのではないかと。
 - ・谷津干潟などでの知恵や経験を反映するとともに、漁業者も加わっていただくよう呼びかけていただきたい。

(5) 平成16年度「市民参加による現地調査事業」について

(主な意見)

- ・今あるデータに市民調査を重ね合わせるなど、市民と一緒に調査やデータ管理を行うことがいいのではないかと。

(会長のまとめ)

- ・市民の関心を高め、三番瀬の再生、保全、利用に役立つ調査ができるような仕組みを展開していく必要がある。

(6) 平成17年度県予算について

県から資料に基づき説明したが、特に意見はなかった。

(7) 千葉港葛南中央区(-12M)岸壁の整備について

県及び国土交通省直轄の千葉港湾事務所から説明があった。

(主な意見)

- ・岸壁が29メートル三番瀬よりに張り出す理由はなにか。
- ・棧橋の下の人工地盤で、ワカメやアマモの生育は見込めるのか。

(県)

- ・大型船舶の係留のために必要な長さとしたものである。

(8) 第2回会議の会長まとめ

今後の会議については、奇数月に開催するなど定期的に行っていくこととしたい。平成16年度の県の調査などについては、再生会議の意見を踏まえ、進めていっていただきたい。

次回の会議では、資料の8ページから19ページまでの再生会議の全体の枠組みについて意見をいただくこととする。

-12M岸壁については、29メートル張り出すことの必要性を、次回の会議で再度説明してもらいたい。

説明できなかった「行徳湿地での実験」についても、次回説明する。

(9) 次回以降の会議の開催

次回は、2月18日(金)とする。

その次は3月下旬とし、後は奇数月に開催することで事務局から連絡する。